6.診療科別主要手術別患者数（診療科別患者数上位 5 位）

症例数の多い手術件数を各診療科別に集計しました。 項目は K コードに対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢、患者用パスの 有無で、上位 5 位を掲載しております。

定　義

手術術式の点数表コード(K コード)による集計とし、輸血関連(K920$)や創傷処理などの軽微な手術、加算等は除外とする。 同一の K コードで複数の部位が対象となる手術は、DPC コードを用いて部位別に集計する。 転院は、最終的な退院先が「転院」の患者とする。

●指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇K コード： 医科点数表で定められた、手術に対する点数表コードです。

◇患者数：10 未満の数値の場合は、－（ハイフン）で表記。

◇平均術前日数 ：入院日から手術日まで(手術日当日は含まない)の平均日数です。

◇平均術後日数： 手術日(手術日当日は含まない)から最終退院日までの平均日数です。

◇患者用パスの「あり」をクリックすると該当のクリニカルパスが表示されます。

【循環器内科】

Ｋコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	26	5.12	3.69	7.69%	74.81	あり
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	24	0.00	1.00	0.00%	71.63	あり
K5461	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞）	16	0.00	16.06	12.50%	71.50	あり
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	15	2.80	1.80	0.00%	72.93	あり
K616-42	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（１の実施後３月以内に実施する場合）	13	0.00	1.08	0.00%	72.08	あり

解　説

当科では、下肢閉塞性動脈硬化症の患者さんに対する血管拡張術・血栓除去術や、人工透析を行っている患者さんのシャント狭窄・閉塞に対するカテーテル治療を積極的に行っています。また、虚血性心疾患に対する冠動脈ステント留置術・冠動脈形成術も多く行っています。カテーテル治療は、手首や足の付け根から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。急性心筋梗塞に対する冠動脈手術では救命の為、一刻も早く治療を開始する必要があります。

【消化器内科】

Ｋコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径２cm未満）	160	0.06	1.06	0.00%	66.09	あり
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	63	2.43	7.37	1.59%	82.03	なし
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	28	2.43	6.96	0.00%	67.21	あり
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径２cm以上）	23	0.52	2.00	0.00%	69.61	あり
K722	小腸結腸内視鏡的止血術	20	1.60	4.75	5.00%	67.10	なし

解　説

消化器内科では大腸ポリープ、胆管疾患での入院が多くなっています。大腸ポリープ切除術では、内視鏡を用いてポリープの切除を行います。術後の経過をみて、多くの場合は１泊２日で退院となります。胆管結石では内視鏡的乳頭切開術や内視鏡的胆道結石除去術と共に内視鏡的胆道ステント留置術を行い、結石の摘出や胆管狭窄、胆管の炎症などに対しての治療を行います。また、大腸の出血を止める手術は、憩室や腫瘍からの出血に対して行い、出血による状態悪化を防ぐことで早期退院が出来るようになっています。

【小児科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第１度）	11	0.00	9.55	0.00%	0.00	なし
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第２度）	11	0.00	18.73	0.00%	0.00	なし
K300	鼓膜切開術	－	－	－	－	－	－

解　説

小児科では主に、生まれたばかりの新生児の状態が悪く、蘇生処置が必要な場合に行う新生児仮死蘇生術という手術を行います。仮死第１度のもの、仮死第２度のもののように仮死状態の重症度によって手技が変わります。術後は状態を注意深く見守るためにＮＩＣＵと呼ばれる新生児用の集中治療室へ入院します。また、鼓膜切開術については、中耳炎などで膿が溜まった場合に行います。耳鼻科の医師と連携して行うため、より専門的な処置が可能となっています。

【外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	69	1.48	3.32	0.00%	64.81	あり
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	52	1.15	2.54	0.00%	74.38	あり
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	29	0.66	2.76	0.00%	42.17	あり
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	16	4.56	10.38	0.00%	71.81	あり
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	11	2.18	4.36	0.00%	72.36	なし

解　説

腹腔鏡下胆嚢摘出術は開腹して行う胆嚢摘出に比べて、術後の疼痛や患者の身体への負担が軽減されるため、胆のう結石や胆のう炎に対して多く行っています。また、入院期間も短縮になるので、鼠径ヘルニアや虫垂切除等の手術でも腹腔鏡下で多く行う場合があります。
また、結腸腫瘍に対しての切除術や化学療法を行うためにカテーテル設置をする手術などを行うケースも増えており、がん患者に対しての治療も積極的に行っております。

【整形外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術（上腕・大腿）	82	1.87	18.45	56.10%	81.07	あり
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（大腿・下腿・躯幹・前腕・肩・上腕）	49	1.57	1.86	0.00%	54.49	あり
K0462	骨折観血的手術（下腿・前腕）	49	2.69	7.33	12.24%	67.33	あり
K0811	人工骨頭挿入術（股）	33	2.64	18.06	69.70%	78.12	あり
K0463	骨折観血的手術（鎖骨・足・膝蓋骨）	17	3.24	6.82	11.76%	51.82	あり
K0821	人工関節置換術（膝・股）	17	2.82	16.76	41.18%	75.59	あり

解　説

整形外科で最も件数が多い手術は骨折観血的手術です。その中でも大腿骨近位部（頚部・転子部）の症例が上位であり、骨粗鬆症を併発している高齢の女性が患者さんの多くを占めています。また、骨接合ではなく人工骨頭挿入術を行うケースも多く、こちらも４番目に多い手術となっています。
当院の特徴としては、骨・軟部腫瘍の症例が多く、良性・悪性問わず腫瘍切除術を行っています。
上記の腫瘍部位以外にも、手・足の骨・軟部腫瘍の手術も行っており、良性・悪性で手技が分かれますが、いずれも上位の件数となっています。

【脳神経外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	10	0.10	9.60	10.00%	82.10	なし
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	－	－	－	－	－	－
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他のもの）	－	－	－	－	－	－
K1742	水頭症手術（シャント手術）	－	－	－	－	－	－
K160-2	頭蓋内微小血管減圧術	－	－	－	－	－	－
K166	脳膿瘍全摘術	－	－	－	－	－	－
K178-4	経皮的脳血栓回収術	－	－	－	－	－	－
K179	髄液漏閉鎖術	－	－	－	－	－	－
K189	脊髄ドレナージ術	－	－	－	－	－	－
K6154	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他のもの）	－	－	－	－	－	－

解　説

慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術が当科で最も多く行われています。慢性硬膜下血腫は軽症頭部外傷から１～２ヶ月後に発症し、脳卒中を疑われ救急搬送されることが多く、入院早期に穿孔洗浄術を行います。侵襲の少ない手術であるため、高齢者でも適応となります。
その他に件数は多くありませんが、脳動脈瘤クリッピング術、経皮的脳血栓回収術、開頭での脳腫瘍摘出術や頭蓋内微小血管減圧術、脊髄ドレナージ術などを適応に応じて行っております。上記のうち、経皮的脳血栓回収術はカテーテルを用いて血栓を除去し閉塞血管を再開通させる治療であり、脳塞栓急性期の患者さんを対象に緊急で行っております。脳梗塞の症例では一般にリハビリ病院への転院を要しますが、早期の再開通によって予後の経過が良好となり、転院せずに退院となることもあります。

【泌尿器科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	91	1.11	2.42	0.00%	54.87	あり
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	71	0.17	3.07	1.41%	62.24	あり
K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	53	1.58	4.55	0.00%	72.38	あり
K841-21	経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウムレーザー又は倍周波数レーザーを用いるもの）	29	1.00	4.38	0.00%	69.97	あり
K841-7	経尿道的前立腺水蒸気治療	19	2.11	4.26	0.00%	79.21	あり

解　説

経尿道的尿路結石除去術は、尿道から細径の内視鏡を挿入しレーザーで結石を破石する手術です。結石が尿管の狭窄を起こす可能性がある為、この手術の前に経尿道的尿管ステント留置術を行うことが多いです。膀胱悪性腫瘍手術は、尿道から内視鏡を膀胱へ挿入し電気メスで膀胱腫瘍を切除します。経尿道的レーザー前立腺切除術は、尿道を圧迫している腫大した前立腺を内視鏡で数個に分けて核出します。核出した前立腺は、膀胱内で機械を使って細かくして摘出します。従来は開腹手術が選択されるような大きな前立腺にも適応しています。経尿道的前立腺水蒸気治療は、高温の水蒸気を用いて前立腺を縮小させます。低侵襲かつ異物を体内に残さずに治療することが可能です。当院ではこの治療を 2024 年から開始しています。

【婦人科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K877-2	腹腔鏡下腟式子宮全摘術	199	1.08	4.19	0.00%	47.74	あり
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡によるもの）	123	0.91	3.10	0.00%	42.49	あり
K872-2	腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	68	1.00	4.09	0.00%	38.88	あり
K867	子宮頸部（腟部）切除術	52	0.04	1.92	0.00%	41.96	あり
K861	子宮内膜掻爬術	46	1.02	0.15	0.00%	52.15	あり

解　説

子宮筋腫や子宮内膜症に対して、腹腔鏡下子宮摘出術・子宮筋腫核出術などを施行しています。
卵巣のう腫に対しては、子宮附属器摘出術と核出術を施行しています。

【産科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	88	1.85	6.15	0.00%	35.68	あり
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	41	1.63	6.49	0.00%	35.07	あり
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡によるもの）	－	－	－	－	－	－
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	－	－	－	－	－	－
K8721	子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	－	－	－	－	－	－

解　説

分娩件数の減少に伴い帝王切開数自体も減少しています。
適応は胎児機能不全や母胎合併症などさまざまでありますが、緊急帝王切開に関しては麻酔科専門医に麻酔を依頼しています。また、新生児の状態によっては小児科医の立ち合いによる蘇生を行う事で母児ともに健康で出産を迎えることが出来ております。

【眼科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821ロ	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	343	0.01	0.95	0.58%	74.86	あり
K2801	硝子体茎顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含むもの）	118	0.81	4.41	0.00%	69.47	あり
K2684	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術)	11	0.64	4.18	0.00%	66.27	なし
K279	硝子体切除術	11	0.27	2.27	0.00%	62.18	あり
K281	増殖性硝子体網膜症手術	－	－	－	－	－	－

解　説

眼科入院の多くは、白内障手術（水晶体再建術）を行っています。ほとんどの患者さんが、入院日に局所麻酔にて手術を行い術後の状態を見て翌日退院となります。また、身体への負担を軽減するために、片眼の手術後に一度退院し、後日再入院して反対側の眼の手術を受けられる患者さんも多くいます。次いで挙げられるのが、網膜前膜などに対して行われる硝子体顕微鏡下離断術です。同時に水晶体再建術も行う事もあります。術後に連日眼科検査を行い、約１週間の間に退院となっています。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術３型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	34	1.15	4.74	0.00%	53.24	あり
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	23	1.00	7.26	0.00%	9.57	あり
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術４型（汎副鼻腔手術）	22	1.00	5.86	0.00%	53.05	あり
K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術２型（副鼻腔単洞手術）	－	－	－	－	－	－
K309	鼓膜（排液、換気）ﾁｭｰﾌﾞ挿入術	－	－	－	－	－	－
K347	鼻中隔矯正術	－	－	－	－	－	－

解　説

耳鼻咽喉科で多い手術は、内視鏡下鼻・副鼻腔手術です。アレルギー性鼻炎や鼻中隔弯曲症も併発している患者さんが多く、同時に鼻甲介手術や鼻中隔矯正術も同時に行います。次いで多いのが、慢性扁桃炎や扁桃肥大に対して行う口蓋扁桃術（摘出）です。口蓋扁桃手術では、同時にアデノイド手術を行うこともあります。